



<<最終更新日：2023年03月06日>>

基本情報

時間割コード	231222
開講区分(開講学期)	春～夏学期
曜日・時間	月2
開講科目名	経済学特論（フィールド実験マネジメント）
教室	法経/演習室1
開講科目名(英)	Special Lectures in Economics(Planning and Management of Field Experiments)
定員	0
ナンバリング	23ECON6E310
単位数	2.0
年次	1,2,3,4,5,6年
担当教員	佐々木 周作
メディア授業科目	非該当

※メディア授業科目について

授業回数の半数以上を、多様なメディアを高度に利用して教室等以外の場所で行う授業を「メディア授業科目」としています。

学部学生が「メディア授業科目」を卒業要件に算入できるのは60単位が上限です。

なお、非該当の場合であっても、メディアを利用した授業を実施する場合があります。

詳細情報

授業サブタイトル	フィールド実験マネジメント / Planning and Management of Field Experiments（対面）		
開講言語	日本語		
授業形態	演習科目		
授業の目的と概要	<p>この授業の目的は、経済実験の手法の一つである「フィールド実験」の概要と特徴を学び、自らフィールド実験を企画・立案し、完遂するために必要となる技能を習得することである。</p> <p>授業計画の前半では、輪読形式で、経済学のトップジャーナルに掲載されたフィールド実験論文を精読するとともに、同様の実験を日本国内で実施するためにはどうすればいいかという観点から分析する。後半では、履修者がそれぞれの研究領域において将来実施したいフィールド実験を具体的に定めて、その実施のための「実験計画書」を作成する。</p> <p>※フィールド実験では、地方自治体の住民や民間企業の社員など一般の人々を対象に、彼らの家庭や職場など日常生活の場面を実験場にランダム化比較試験を適用して、経済学理論の予測を検証したり、政策やマーケティング施策の効果を測定する。フィールド実験研究の大きな特徴は、ステークホルダー（利害関係者）の数の多いチーム研究となる点にある。</p> <p>※2回ほど、日本国内でフィールド実験の実施経験を有する研究者をゲストスピーカーとして招待する予定である。</p> <p>※取り扱う論文のトピックは、行動経済学だけに限定されない。</p>		
学習目標	<p>（1）論文の精読と分析を通じて、フィールド実験の実施にあたって必要な体制、想定される障壁と乗り越えるための工夫を整理できるようになる。</p> <p>（2）自らの研究領域において、実現可能性の高い「フィールド実験計画書」を作成できるようになる。</p>		
履修条件・受講条件	経済学のトップジャーナルに掲載されたフィールド実験の英語論文を自ら精読し、他者に向けて内容を解説できること。		
授業計画	<p>※履修生・聴講生の人数に応じて、授業計画を調整する場合がある。</p> <table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td> <p>題目:オリエンテーション</p> <p>担当教員による講義</p> <p>・ 依田・田中・伊藤（2017）『スマートグリッド・エコノミクス』有斐閣。</p> </td> </tr> </table>	第1回	<p>題目:オリエンテーション</p> <p>担当教員による講義</p> <p>・ 依田・田中・伊藤（2017）『スマートグリッド・エコノミクス』有斐閣。</p>
第1回	<p>題目:オリエンテーション</p> <p>担当教員による講義</p> <p>・ 依田・田中・伊藤（2017）『スマートグリッド・エコノミクス』有斐閣。</p>		

	・佐々木（2019）「チーム研究の作法：フィールド実験の立上げから運営まで」『日本労働研究雑誌』
第2回	題目:フィールド実験の概要と特徴①
	担当教員による講義 ・依田・田中・伊藤（2017）『スマートグリッド・エコノミクス』有斐閣。 ・佐々木（2019）「チーム研究の作法：フィールド実験の立上げから運営まで」『日本労働研究雑誌』
第3回	題目:フィールド実験の概要と特徴②
	担当教員による講義 ・依田・田中・伊藤（2017）『スマートグリッド・エコノミクス』有斐閣。 ・佐々木（2019）「チーム研究の作法：フィールド実験の立上げから運営まで」『日本労働研究雑誌』
第4回	題目:ゲスト講義
	ゲストスピーカーによる講義
第5回	題目:フィールド実験論文の精読と分析①「電力・エネルギー」
	学生による口頭報告にもとづく全体議論
第6回	題目:フィールド実験論文の精読と分析②「租税」
	学生による口頭報告にもとづく全体議論
第7回	題目:フィールド実験論文の精読と分析③「寄付・ボランティア」
	学生による口頭報告にもとづく全体議論
第8回	題目:フィールド実験論文の精読と分析④「労働・教育」
	学生による口頭報告にもとづく全体議論
第9回	題目:フィールド実験論文の精読と分析④「医療・健康」
	学生による口頭報告にもとづく全体議論
第10回	題目:ゲスト講義
	ゲストスピーカーによる講義
第11回	題目:フィールド実験計画書の作成と進捗報告①
	学生による口頭報告にもとづく全体議論
第12回	題目:フィールド実験計画書の作成と進捗報告②
	学生による口頭報告にもとづく全体議論
第13回	題目:フィールド実験計画書の作成と進捗報告③
	学生による口頭報告にもとづく全体議論
第14回	題目:フィールド実験計画書の作成と進捗報告④
	学生による口頭報告にもとづく全体議論
第15回	題目:フィールド実験計画書の作成と進捗報告⑤
	学生による口頭報告にもとづく全体議論
授業外における学習	・授業内で口頭報告する機会が2回以上あるので、その準備のための学習。 ・また、最終レポートとしての「フィールド実験計画書」を執筆するための学習。
教科書・指定教材	特になし。参考図書・参考教材から適宜配布する。
参考図書・参考教材	・依田高典・田中誠・伊藤公一朗（2017）『スマートグリッド・エコノミクス フィールド実験・行動経済学・ビッグデータが拓くエビデンス政策』有斐閣。 ・佐々木周作（2019）「チーム研究の作法：フィールド実験の立上げから運営まで」『日本労働研究雑誌 特集：研究対象の変化と新しい分析アプローチ』, No.705, pp.13-18。 ・高野久紀（2007）「フィールド実験の歩き方」西條辰義編『実験経済学への招待』NTT出版。 ・日本評論社（2015）『経済セミナー2015年6・7月号 世の中を変えよう！フィールド実験入門』日本評論社。 ※最初の授業で、輪読対象のフィールド実験論文のリーディング・リストを配布する。
成績評価	30%：フィールド実験の英語論文の口頭解説（1回分） 30%：実験計画書の進捗報告（1回分） 30%：完成版の実験計画書の提出（最終レポート） 10%：発言・議論を通じた授業への貢献

出欠席及び受講に関するルール※	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として対面で実施する。単位修得を目指す学生は対面で出席すること。 ・全授業回数のうち3分の2以上出席することが必要。出席回数がこれに満たない場合、成績評価の対象外となる。 ・また、「フィールド実験の英語論文の口頭解説」「実験計画書の進捗報告」「完成版の実験計画書の提出」のいずれかを担当しなかった場合にも、成績評価の対象外となる。
コメント	経済学だけでなく、経営学・政治学・心理学などの分野でフィールド実験に取り組んでみたい学生の参加も歓迎します。
特記事項	障がい等に起因して、本授業の履修に際して特別な配慮を要する場合は、授業開始までに教員や所属部局の障がい学生支援担当教職員、障がい学生支援ユニットに相談すること。
実務経験のある教員による授業科目	

授業担当教員

教員氏名	所属・職名・講座名	e-mail
佐々木 周作	感染症総合教育研究拠点, 科学情報・公共政策部門, 行動経済学ユニット, 特任准教授(常勤)	ssasaki.econ@cider.osaka-u.ac.jp

学生への注意書き

※出欠席及び受講に関するルール：令和5年度以降のシラバス項目 / *Attendance and Student Conduct Policy: field available from FY2023